



NO.398

R2年9月1日

-発行-

〒869-1217

熊本県菊池郡

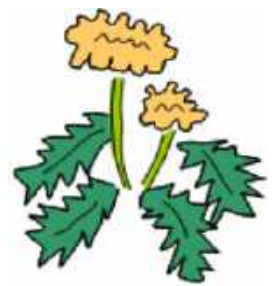
大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



家族からの手紙

理事長 松田 健



コロナ禍の中、家族の方から多くの手紙を頂きました。私の宝物がまた増えました。一部ここに披露します。親御さんの想いが心に伝わってきます。

①この度は、お忙しい中をいろいろと御配慮を頂きありがとうございます。三気の里の皆さんの生き生きとした姿（写真）を見せて下さって安心しました。さんきマーケット、ローン移動販売車等、皆さんがカゴを持ち笑顔の姿でした。

我が子も家では見せない笑顔をしていて、とても安心しました。先日は、ほんの少しのマスクにわざわざお電話を頂き恐縮してしまいました。親として何

もお役に立てず、本当に申し訳ありません。（中略）

熊本のコロナは段々ふえてきて、いつ終わるのでしょうか。スタッフの皆様のお仕事のこと、三気でのお仕事のこと、とても大変な時だと思えます。

いつもでしたら三気の里の桜も咲いて平和な時ですのに。担当の方からきちんと連絡を頂きます。田中先生のお心が引き継がれて、とても素敵な三気があると思います。

コロナが早く終わりますように。スタッフの皆様がお元気でありますように。

次に我が子に会える時に、元気でいたいと思います。その時までどうぞよろしくお願い致します。

②おせわ様になっております。長引くコロナで職員の皆様さぞ

かしお疲れのことでしょう。お察し申し上げます。

園生の皆様も元気なご様子。感謝しあげます。

本日、心ばかりのお品をお届け致しました。

職員の皆様、利用者の皆様でお願いします。毎日の緊張の連続の中、ほんの少しだけでも、くつろいで頂ければと思います。

私達も子供がいつ帰宅してもいい様に健康には充分気をつけて過ごしております。

職員の皆様もくれぐれもご自愛くださいませ。笑顔でお会いできる日を楽しみにしています。

③日常生活のあらゆる面で手厚い支援をいただき、感謝しております。

この頃十分に睡眠も取れており穏やかな生活が出来ておりま

す。まだ少々服破りがあり、心懸かりです。

相手の呼びかけには、対応しようとする気持ちを持つていますが、言葉が出ないため、自分の意思が相手にうまく伝えられない苦しみが多くあります。身振り、手振りやカードを使うなど意思伝達の良い方法がないものでしょうか。

排便後の始末は、本人にとつて一番難しいことのひとつと思われませんが、若いスタッフの方々によく手の届いた援助をしていただいております、感謝しております。

健康保持、病氣した時の対応には日頃から配慮していただいておりますが高齢化による健康面での心配は多くなっていくものと思われま。少し脊椎が曲がっており、腰痛も心配です。これからも散歩など体力保持のための運動を継続してお願い致します。

（※紙面の都合上、一部割愛、加筆修正しています。松田）



9月



1班「新しい作業」

7月下旬から新しい作業が追加されて、ますます活気ある毎日を過ごしています。新しい作業の内容は、手もぎ作業で、1班の全ての利用者さんが出来る作業です。まずは製品と完成品とスプールに分ける3つの箱を準備し、作業開始となります。作業量は利用者さんによって違いがあります。開始から沢山の作業に取り組まれるKさんは、難しい作業が得意ではありませんが、この作業は黙々とテンポ良く取り組まれます。作業量が多いことでためらう場面が見られるTさんやSさんは、少しずつ作業を提供する事で、いつの間にか沢山の完成品を仕上げられます。トマトのシール貼りを上手にされるNさんやWさんもこの作業をされますが、丁寧な分、他の方よりも時間がかかってしまいます。利用者さんによって、作業の提供に配慮が必要だと思いました。また、この作業は今までの作業とは異なり、1箱8000個ごとに作業を行います。1箱8000個の完成品が出来てから次の8000個に取り組みます。合計4箱を一つずつ丁寧に取り組んでいます。1班のみんなで忙しくて充実した日々を過ごしています。

支援員 原田 直美

2班「新しい生活様式」

9月になっても暑さ厳しい日々が続く毎日です。私たち2班の作業は、コロナに影響されることもなく、毎日充実した日々を送ることができています。

3月から始まった週に1度のローソン移動販売。気付けば半年が経ちました。このコロナ禍で、2班の皆さんも自粛を余儀なくされ、外出等が叶わない中、“ローソンの日”をとっても楽しみにされています。販売車へと向かう前に行く、マスク着用と手指消毒は、当初、戸惑われる方が多かったのですが、今ではスムーズに行うことができ、視覚的な支援により、ソーシャルディスタンスを保って買い物をする事が出来るようになりました。将来、新しい生活様式が日常的な習慣になるかもしれません。コロナと共存しなければならない時代となった今、利用者の皆さんが順応できるように、共に経験を積み重ね、スーパーやコンビニ等で、スムーズに行動できるように、支援していきたいと思います。

支援員 中村 愛

3班「まずは、やってみる」

3班では、野菜作業をしています。業者の方から指定されたルールがあります。玉ねぎを袋に入れる時は、根っこを重ね合わせて袋に入れる。胡瓜を袋に入れる時は、蒂(ヘタ)を下にして入れるなどです。特に玉ねぎの袋詰めは、やってみると難しく、思うようにできない場面が多くみられます。「根っこを合わせる」ということが、この作業のポイントになります。最初にAさんが取り組まれた時には、「1つ玉ねぎを袋に入れると、もう1つの玉ねぎがずれます」と悪戦苦闘されていました。両手を上手に使うことを伝え、繰り返し練習したことで、今では一人でお任せできるほどです。

「次は、袋閉じもやってみてください」とのことで、袋をテープで閉じる作業にもチャレンジをされました。胡瓜の袋閉じは、あっという間に一人でできるようになりました。少しずつですが、作業の幅が広がられています。これからも、Aさんのチャレンジ精神を応援していきたいと思います。

支援員 元杉 朋世



4班「マイペース」

夏祭りの日、食事が始まるまでの待ち時間に、YさんとKさんにパズルをやりませんかとお誘いしました。Yさんは少し気乗りのしない様子に見えましたが、もう一度声をおかけすると、『やる、やる』と言われ、あいうえおのひらがなのものを始められました。手に取ったピースとボードを見つめながら、置いては離しを繰り返す、なかなか進まない状況です。つい『それはここじゃないですか？』『端っこのまっすぐの所からやるとわかりやすいですよ』などと私は横やりを入れてしまいます。Yさんは私が手渡したピースをチラと見て軽いため息をつき、『それは後ほど』というような表情でそれを脇に置き、またご自分が選んだピースを思うところに置いていく…とマイペースで進められていきました。

そうしていくうちに、とうとう最後のピースをはめられ、私は思わず拍手をしていました。Yさん、邪魔をしてすみませんでした。利用者さんを信じて見守ることの大切さを実感し、口出しされながらやりきったYさんを頼もしく思い、ますます好きになった出来事でした。

支援員 古庄 優子



5班「急がば回れ」

5班のメインの作業にリサイクルショップから頂いているおもちゃの梱包作業があります。飛び込みで営業に行ったのですが快く話を聞いてくださり、仕事を頂くことができました。簡単な作業内容ではなかった為、少ない量から始めました。ひとつひとつの作業単価は低くないものの慣れない作業に苦戦し、思うように数をこなすことができずに工賃も雀の涙ほどでした。技術的に難しいのか？やり方がまずいのか？試行錯誤していく中で、ワークシステムを整えていき、スタッフ・利用者ともにわかりやすくすることで時間短縮、効率化ができ、作業量が大幅に向上しました。流れができてくると、工程が細分化され作業に加わる利用者が増えていき、利用者の隠れた才能に気付くこともできました。作業効率が上がっていく毎に頂く作業・工賃も増えていき、外注作業から今では店舗で働いてほしいという施設外就労の話の頂くまでに至りました。しかし残念ながら現在コロナの影響で施設外就労に関しては話がうまくまとまっていない段階です。コストや労力を考えるとマイナスだった仕事が今は就労の域に達してきました。目の前の利益でなく、先を見通し、成果が出ずともコツコツと積み重ねることで大きな成果になることを学び、利用者・スタッフともに喜んでいきます。

主任支援員 佐藤 和也



GH「夏の思い出」

お盆は、例年なら夏季帰宅訓練の時期ですが、今年は新型コロナウイルス感染防止の為、帰宅は中止、外出もしにくい状況の中で何か楽しめることはないかと考え、夕涼み会（ミニビアガーデン）を行いました。夕食後に「外で一さ一杯！」という目的で、たこ焼きをおつまみに、事前に選んで頂いた飲み物（ビール込み）を飲むといった小さなイベントでした。しかし、飲み物のメニューが豊富で、事前に選ぶ時から悩みに悩んで普段とは違ったものを選ばれる方、いつもと変わらないものを選ばれる方と、それぞれに注文したものを楽しみにされていました。

当日、ビールを平気な顔で飲んでいる方の隣では、ノンアルコールのカクテルでほろ酔い気分になられている方も。最後には花火を行い、夏らしい雰囲気を楽しまれたようです。

次の日、仕事に行き「夕涼み会が楽しかった」と報告をされたという話を聞いて嬉しくなり、今度は何をしようかとワクワクしながら考え中です。

世話人 藤本 優香



地域課

主任 石丸 直美

今、何をすることも、コロナウイルスのことなしでは考える事が出来ない状況にあります。本来夏から秋にかけて様々な地域でのイベント参加、園内行事で計画、準備、実行に日々追われる時期ですが、園内行事のみの運営しかできない状況です。日常生活において当たり前であった、買い物、散髪、帰宅、通院のために、施設の外に出ていくことも困難な状況にあり、入所利用者、そして自宅から通って来られる利用者、家族の方全てにおいて大きな影響を受けています。しかしそれは一時的な状況ではないため、ただただ自粛するのではなく、この状況下で実施していく方法を新たに見出し、いかなければなりません。三気の里では、スタート会、夏祭りが例年とは違った方法で実施されました。例年沢山のボランティアとして参加して下さる学生さんの力を借りることが出来なかった分、スタッフが知恵を絞り、力を出し合って実施をし、規模は小さくなりましたが、利用者の方々には喜んでいただけ

きました。これから運動会、開園祭、もちつき大会と行事は続きます。利用者の一番の楽しみであった旅行は難しいでしょうが、旅行に代わる何かを生み出す必要もあると思います。熊本地震の被害を受けた時、これ以上のことはもうないだろうと思いましたが、今が地震を越える時であり、私たちは試されている、本物の支援者であるか篩(ふるい)にかけられているような気持ちです。

生活課

主任 本田 誠

生活課の役割・機能として、①生活環境の整備、②ルーティンの見直し、③健康管理、④各課の委員会・係におけるマニュアルの整備及び見直しといった4つの柱で業務を担っています。利用者の皆さんに対して、「安心、安全、快適」を届けることを目標として取り組んでいます。

今年度は、新型コロナウイルスの影響を大きく受け、さまざまな活動に制限や変更が生じています。環境の変化や日課・予定の変更を苦手とする皆さんに對して、負担を軽減する方法は

ただ一つであり、今までよりも良い環境・ルーティンを提供することです。今回、新型コロナウイルスがきっかけで、業務の見直しや新たな取り組みを行ってききましたが、中には、終息後も継続すべきであろう、成果を得ている取り組みが存在します。今後も利用者皆さんの特性に考慮し、柔軟な思考で知恵を出し合い、より良い取り組みを提供して行きます。



療育雑記

「今だから前を向いて」

事業課長 平川 聖子

昨年からBeTREETREEへの移行を希望していたAさん。昨年は移行の面接直前で体調を崩してしまい、移行を断念しました。体調不良での断念で、Aさんは自信を失い、自分が移行したいのかどうか迷いが出ていました。

年が明けて、Aさんや家族と話し合い、再度BeTREETREEへの移行にチャレンジしようということになり、3月半ばにBeTREETREEでの実習を計画しました。ところが、今度はコロナウィルスの感染対策で実習が中止となりました。コロナウィルスの感染がどのようなようになっていくのか分からず、実習や移行の申請をいつの時期にするのか予測がつかない状況でしたが、BeTREETREEがAさんの通う地域活動支援センターアンパのスペースを借りて運営することになり、AさんはBeTREETREEの作業を

体験する機会を持つことができました。ケーキの袋作りや絆創膏の箱詰めなどの作業に取り組み中で、Aさんは自信を取り戻し、BeTREETREEに移行したいという気持ちを固めることになりました。

さて、面接の日程が決まり、いよいよ移行の日を楽しみに待とうと思っていた矢先、Aさんはアンパでの作業が手につかなくなり、生活場面でも落ち着かなくなりました。話をしていくと、BeTREETREEへの移行は、希望すればすぐにも行けるものと思っていたらしく、移行が待ちきれないことと、アンパでの作業内容が受け入れがたいことで落ち着かない言動が出ていたようでした。利用するサービスの変更には手続きが必要で、手続きが済むまでには日数もかかることは口頭では説明しましたが、Aさんの特性を考えると、視覚的に分かるような情報提供をしなければいけなかったのですが、支援ができていないために不安にさせてしまっていたのです。理解できるように説明や

提示ができていなかったことをAさんに謝罪し、面接と移行の日に向けたカウンタダウンのカレンダーで移行までの見通しを持てるようにしました。さらに、今の支援を二気の里の支援スケジュールに照らしてみると、「するべきことがわかりやすいようスケジュールや手順書を提示している」「他者のペースに合わせることで、こだわりや常同行動の軽減、情緒のコントロールに繋がるように支援している」という点で支援が不足していることに気づき、生活全般のスケジュールの中で、どう行動すればよいのかを細やかに提示し、それに沿った行動をする中で、他者のペースに合わせたり、待ったりルールを守ったりする練習をするようにしました。Aさんは、これまでの生活を振り返って、「落ち着いて行動している人たちがいろいろな努力をしていると考えたことがなかったし、いろいろなことでも我慢をしていることも知らなかった」と話しました。落ち着かない気持ちや行動にブレーキを掛ける練習を積

極的にしていくことが、今後の生活に不可欠ということを受け入れて、一緒に頑張っていこうと前向きな姿勢になっています。コロナウィルスの流行が、この先どのようなようになっていくかは見通しが立ちませんが、利用者さんの支援は待ったなしです。感染対策で自粛ムードの中、私自身が少し立ち止まってしまっていたところがありますが、「今はこのような状況だから」と日ごろの支援が不足にならないように、前を向いて支援にあたりたいと思います。



「スタート会」

支援員 相馬 敦

先日7月22日にスタート会を開催させていただきました。毎年スタート会はホテルの大広間を貸し切り、一堂に会して円卓頂を囲んでコース料理を楽しめます。私は昨年初めてこの光景を観て感動しました。

今年は新型コロナウイルスの影響があり作業棟で班ごとに昼食を食べ、体育館で職員が歌の余興を行いました。昼食は大津町にある和牛焼肉リーベのカルビ弁当です。さすがにコース料理には劣りましたが、私の個人的な感想で恐縮ですが、大げさではなく今まで食べた焼肉弁当の中では断トツの美味しさでした。余興の歌にも参加させてもらい、唄いながらほとんどの利用者の方が最初から最後まで椅子に座られたまま、スタッフ3組の余興を楽しんでくれている光景を観ました。

この記事を書いている8月1日時点でコロナ感染者は過去最大になっています。まだまだ見通しが持てません。今年は料理

も余興も満足いくものではなかったかもしれませんが。来年は再びホテルで、一堂に会して、コース料理や余興を楽しんでおられる光景が観られるのを願うばかりです。



フェイスシールドを作ろう！

理事長 松田 健

緊急事態宣言が発令されていた頃、フェイスシールドがネット上から消えました。やっと見つけても、2千円ぐらいの価格がついていました。そこで、相談業務に携わるスタッフが立ち上がりました。どうしたら安く作れるかとリサーチを開始し、試行錯誤を繰り返し、一つ50円程度で作れる方法を見出しました。装着感も良好です。

よければ皆さんも作成されてください。グループワークで行うと楽しく作成することが出来ます。スタッフの意識高揚にもつながると思います。しかし、使用しないことを切に願っています。

フェイスシールド作成委員長の立花相談員と実行委員の浦田相談支援専門員が中心となって任務を遂行してくれました。不明な点は、立花相談員までお問い合わせください。近々ホームページ上にフェイスシールドの作り方をアップします。



ハロウィンバージョン

伊藤支援員作



さんきフェイスシールドの作り方

準備するもの（すべて100円均一で揃います）



何も挟まずラミネートしたフィルム



スポンジ幅3cm
長さ25cmにカット



ゴム幅2.5cm
長さM30cm~L35cm



粘着テープ幅5cm

作り方



ラミネートの上部から5mm下に左右均等にスポンジをはりませす。



ホッチキスでゴムをラミネートに留めます。



ホッチキスの芯の先が外側にくるように留めます

ポイント!



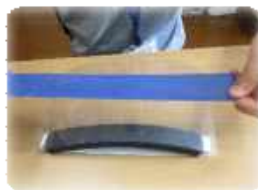
ラミネートの角を切り取るための輪郭線を書きます。（下の2ヶ所）



完成で〜す!



ここが一番の難所です。しわが寄らないように貼りましょう。



輪郭線をハサミで切ります。



僕にも簡単にできました。



9月スケジュール

三気の里
 1日(火) 嘱託医来診
 3日(木) ローソン移動販売
 4日(金) 訪問理容サービス
 10日(木) ローソン移動販売
 11日(木) 訪問理容サービス
 12日(土) ※帰宅は中止です
 14日(月) 訪問理容サービス

17日(木) ローソン移動販売
 24日(木) ローソン移動販売
 24日(木) ~9/25(金)
 強度行動障害基礎研修
 25日(金) 訪問理容サービス
 BeTREE
 <営業時間>8:00~18:00
 詳しくはインスタで



betree314

森川 瑠介 様	西村 真由美 様	坂口 正浩 様	渡邊 正司 様	田中 新一 様	坂田 実 様	井手上昌子 様	魚谷 秀文 様	松永 広美 様	田口 康博 様	坂田 多鶴子 様	藤本 栄之助 様	赤星 央子 様	〈その他〉	大津町役場 様	興呂木克昭 様	森木 美樹 様	林 千莎子 様	〈衛生用品〉	満塩 武臣 様	米村 秋江 様	【寄付】
---------	----------	---------	---------	---------	--------	---------	---------	---------	---------	----------	----------	---------	-------	---------	---------	---------	---------	--------	---------	---------	------

寄付ありがとうございました



松本 聡子 様
 甲斐 真史 様
 白井 桂子 様
 田中 基幹 様
 (西)日本防災システム 様



後援会ありがとうございました

坂田 多鶴子 様
 亀崎 幸久 様
 金森 保 様
 キンキ 様
 リニエルサプライ 様
 福祉美容アネモネ 様

【編集後記】

事務員 酒井 望美

9月に入り、なんとなく8月とはちがった空気を感ずる今日この頃。夏の疲れが出ていの方もいらっしやるのでないでしょうか。“コロナ対策”に“熱中症対策”…気を付けなければならぬことが沢山ですね。今月号も最後までお読みいただきありがとうございます。最後になりますが、今年度に入り、三気の会のホームページが新しくリニューアルしました。三気の会に少しでも興味を持って下さった皆様に、より見やすく、わかりやすく情報をお伝えできるホームページになりました。そちらの方も是非ご覧になって下さい。

